

# 建設だより

一般社団法人  
長岡市建設業協会

長岡市三和3丁目8番地  
TEL 0258(32)3206代  
sikyokai@nct9.ne.jp

編集 総務委員会  
印刷所 北越印刷株式会社



第3回視察研修会 (2017国際ロボット展)

## 新年にあたって



一般社団法人 長岡市建設業協会

会長 星野光雄

新年明けましておめでとうござ  
います。謹んで新春のお慶びを申  
し上げます。

協会は、平成二十五年十二月三  
日、社団法人から一般社団法人に  
移行して五年が経過し一区切りを  
迎えますが、これからも、社会資  
本の整備と維持管理を通して、地  
域の安全・安心を守る「地域の守  
り手」として、地域社会の発展に  
貢献してまいりたいと考えており  
ます。

さて、建設業界にも週休二日制  
の実現といった長時間労働の是正  
や現場で働く技術者や技能者の処  
遇を改善する働き方改革が求めら  
れています。

これらの改革を実現して行きた  
めには、公共事業予算の確保をは  
じめ、施工時期の平準化や適正な  
予定価格の設定と適切な設計変更

などが重要となります。

特に、繁忙期と閑散期、降雪時  
期などを踏まえた施工時期の平準  
化は、生産性の向上と品質の確保  
とともに業務環境の改善が図られ  
担い手の確保にも繋がります。

これらの課題に対しましては、  
今後とも関連する団体と連携を  
図りながら長岡市に対し、意見交  
換や検討会などを通して改善に向  
けた要望活動を行ってまいります。

今後とも厳しい経営環境が予想  
されますが、建設業の魅力向上と  
課題の解決に向けてひとつずつ取  
り組んでまいりますので、皆様  
のご支援とご協力をよろしくお願  
い申し上げます。

結びに皆様をますますのご発展  
とご多幸を心から祈念いたしまし  
て、ごあいさついたします。

# 新年のご挨拶



長岡市長  
磯田 達伸

明けましておめでとうござい  
ます。謹んで新年のお慶びを申し上  
げます。

長岡市建設業協会の皆様におか  
れましては、日頃から、市民の安  
全で安心な暮らしの確保に御尽力  
をいただくとともに、頻発する災  
害時には、迅速かつ的確な対応を  
いただいております、心より感謝を申  
上げます。

長岡市は今年、開府四百年を迎  
えます。先人の知恵を生かし、次  
なる百年に向けて架け橋を築く節  
目の年です。現場主義と市民協働  
のもと、市民一人ひとりの思いを  
反映した、未来を切り開く「新し  
い米百俵」に挑戦します。

昨年三月、市民待望の「長岡北  
スマートインターチェンジ」が開  
通しました。半年後の九月には、  
県内のスマートインターチェンジ  
で最も短期間での利用台数五十万

台を記録するなど、ご好評をいた  
だいております。また十二月には、

本スマートインターチェンジと国  
道八号方面を結ぶ新たなアクセス  
道路が開通し、広域幹線道路の  
ネットワークが強化されました。

この立地環境を活かして、隣接地  
には、産業団地の整備を計画して  
おり、平成三十年度からは用地取  
得や造成工事に着手する予定で  
す。企業誘致による雇用機会の創  
出や販路拡大を通して、仕事づく  
り、人づくりを進めます。

また、長岡市が持つ魅力を高め  
るとともに、積極的な情報発信を  
行うため、国道八号沿いに長岡花  
火をテーマにした道の駅「ながお  
か花火館（仮称）」の整備を計画  
しています。多様な地域資源を通  
年でPRすることで、観光客の増  
加や地域経済の活性化が見込ま  
れ、交流人口の拡大に大きく貢献  
するものと期待しています。

長岡市は今年も引き続き、貴協  
会の皆様と手を携え、夢と希望に  
あふれるまちづくりを目指してま  
いります。

結びに、本年が皆さまにとつて  
幸多い年となるようお祈り申し上  
げ、年頭のあいさついたします。

# 新年のご挨拶



長岡労働基準監督署長  
堀内 英世

新年あけましておめでとうござ  
います。

長岡市建設業協会の会員の皆様  
方におかれましては、平成三十年  
の輝かしい新春をお健やかに迎え  
えのこととお慶び申し上げます。  
旧年中は、当署の行政運営にひと  
かたならぬご理解とご協力を賜り  
厚く御礼申し上げます。

また、貴会におかれましては、  
建設活動を通じて地域社会の持続  
的な発展に貢献しておられ、深い  
敬意を表する次第です。

さて、平成二十九年の当署管内  
の建設業の労働災害は、前年比較  
で大幅な減少に転じることがほぼ  
確実であり、とりわけ土木工事に  
おいては、減少幅が大きくなって  
います。会員各位の日ごろの地道  
な自主的な災害防止活動の成果で  
あると考えており、感謝申し上げ  
ます。

平成三十年度からは、五年間に  
わたる「第十三次労働災害防止計  
画」がスタートする予定です。新  
年度においては、同計画を踏まえ  
つつ、当署の実状に応じた各種の  
対策を推進することとなります。  
その折には、引き続き、積極的なお  
取組みを賜るようお願い申し上げ  
ます。

さて、「働き方改革」について、  
一言申し上げます。既に社会的な  
用語となり、多義的に用いられて  
いることはご承知のとおりです。  
ただ、当行政の立場からの『働き  
方改革』とは、法定労働条件の履  
行確保を前提としています。それ  
を担保しつつ、個々の企業におい  
て、恒常的な長時間労働や画一的  
な雇用管理などを見直すことをさ  
しています。そして、それらの「改  
革」を実効性のあるものとし、かつ  
継続的に実施していくためには、  
労使の話し合いが肝要であると申  
せましょう。

結びに、この平成三十年という  
年が、会員の皆様方にとりまして  
実り多い一年となりますよう、益々  
のご隆盛とご多幸を心から祈念い  
たしまして、新年のごあいさつと  
いたします。

# 新年のご挨拶



長岡警察署長  
山本 純市

謹んで新春のお慶びを申し上げます。長岡市建設業協会の皆様からは、警察活動各般にわたり深いご理解と多大なるご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年、長岡警察署では振り込め詐欺や交通死亡事故抑止を重点とした住民の皆様身近な犯罪の防止に取組み、職務質問による特殊詐欺事件被疑者の逮捕や外国人による組織的自動車盗事件を検挙しました。

特殊詐欺につきましては、各種対策を推進し被害防止に努めてまいりましたが、前年と比較して被害件数、被害額とも増加し、残念ながら長岡署管内の被害件数は県内ワーストワンでありました。なかでもオレオレ詐欺については、現金を首都圏まで持参させる手口も発生しております。

警察では、今後も犯人の検挙と

被害防止に向けた対策を強力に推進いたします。

また、被害防止に有効な通話録音装置の無料貸し出しも行ってまいりますので、ご希望の方はご連絡をお願いします。

交通事故につきましては、前年に比べ減少したものの、依然として高齢者事故の割合が高く、高齢者が加害者となる事故も増加しており、交通事故防止には一層高齢者対策が必要であると思われま

す。警察では、パトカーの赤ランプ活動や交通指導取締りを強化する一方、高齢者宅の個別訪問やスーパーマーケットでの高齢者への直接指導、老人クラブにおける事故防止指導などの活動に取り組んでまいります。

長岡警察署では、本年も住民の方が安心して暮らせる安全な地域社会の実現に向け、署員一丸となり全力で取り組んでまいりますので、より一層のご理解ご支援をよろしくお願いたします。

結びに、長岡市建設業協会の益々のご発展と会員の皆様のご多幸を祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 環境美化活動の実施

今年度の環境美化活動は、小国地域に引き続き、長岡地域と越路地域で実施しました。

長岡地域では、「長岡まつり大花火大会」会場の早朝清掃活動に

八月三日は三十四社八十九名、八月四日は三十三社八十八名が参加しました。

また、越路地域では、十月八日の「こしじ秋まつり」会場の清掃活動に六社、十五名が参加しました。

今後の予定としては、栃尾地域で平成三十年二月四日に開催される「とちお遊雪まつり」の

会場設営に、山古志地域では、三月十日に開催される「古志の火まつり」の清掃活動に地域の会員が参加する予定です。



## 第二・三回 視察研修会

今年度の重点事業である視察研修会の「第二回視察研修会」が九月四日(月)、二十八名が参加し、「首都圏外郭放水路(国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所)」を、また、「第三回視察研修会」は十一月三十日(木)二十七名が参加し、東京ビッグサイトで開催された「二〇一七国際ロボット展」をそれぞれ研修してきました。

### 首都圏外郭放水路

首都圏外郭放水路は、首都圏の安全・安心を守り続ける地底五十メートルの巨大地下放水路です。

春日部市など埼玉県東部地域は地盤が低く水がたまりやすい「皿」のような地形で、これまで幾度となく洪水被害を受けてきました。

これらの地域を水害から守るため、中川や倉松川、大落古利根川など中小河川の洪水を地下に取り込み、国道十六号の地下約五十メートルに建設された総延長六・三キロメートルのトンネルを通して江戸川に流す世界最大級の地下放水路です。

日本が世界に誇る最先端の土木技術を結集して建設され平成十八年(平成十四年から一部稼働)から稼働を開始しています。

主な施設は、各河川から水を取り入れる「流入施設」、地下で貯水したり流下する

「地下水路」、地下水路から水を排出する「揚水機場」などで構成されています。

そのなかで、今回視察した調圧水槽は、

地下トンネルから流れてきた水の勢いを弱め江戸川へスムーズに水を流すため、地下約二十二メートルの位置につくられた長さ百七十七メートル、幅七十八メートル、高さ十八メートル、高さ十八メートルにおよぶ巨大水槽です。

ポンプ運転の安定と緊急停止時に発生する急激な水圧の変化を調整する役割を持っています。

長さ七メートル、幅二メートル高さ十八メートル、重さ五百トンの柱が五十九本もあり、水槽の天

井を支えている光景はまさに地下にそびえる地下宮殿を思わせます。この地下宮殿は、防災意識の向上とともにテレビや映画の撮影などにも活用されています。



「二〇一七国際ロボット展」は、人とロボットが共存・協働することとで、より優しい社会となることを目指し、「ロボット革命がはじまった—そして人に優しい社会へ」をテーマに開催されました。

会場内は、国内外における最先端の産業用やサービス用のロボット及び関連機器が一堂に展示されたロボット技術の向上による新たなロボット市場の創出と産業技術の

## 農林水産省北陸農政局長へ 要望書を提出



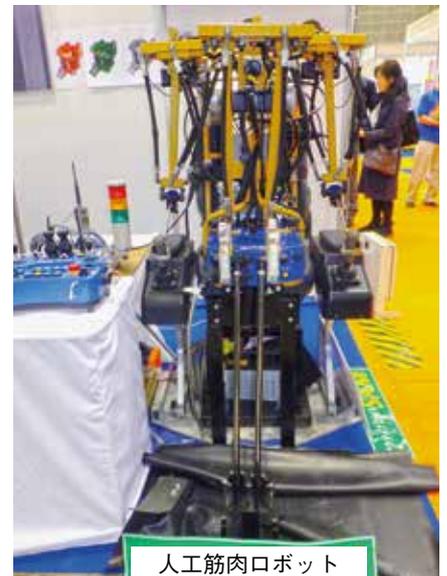
印藤久喜 局長

信濃川左岸流域地区は、国営信濃川左岸土地改良事業から50年以上が経過し、適正な送水管理に支障が生じているほか、経年劣化により維持管理に多大な費用と労力が必要な状況となっています。

これらの課題を解決するため、今回「国営信濃川左岸流域土地改良事業〔総事業費：200億円（予定）工期：平成37年度までの9カ年〕」が実施されます。

このため、工事の施工に当たり、地元の建設業者である当協会の会員を活用していただくよう、10月10日(火)星野会長と細川副会長が農林水産省北陸農政局の印藤久喜局長に要望書を提出しました。

また、9月25日(月)には、長岡地方合同庁舎に開設された北陸農政局信濃川左岸流域農業水利事業所の関根 清所長に同様の要望書を提出しました。



人工筋肉ロボット

振興が期待されています。  
ロボット化は、生産性の向上、労働力の確保、製品品質の向上、

対応をはじめ、土木や林業などの危険な現場で既存の建設機械をそのまま利用することができ、運転

コストの削減といったメリットがあり、特に製造分野においては、ロボットの柔軟性を活かし適用される範囲が拡大を続けています。建設分野で出展されていた「人工筋肉ロボット」は、二次災害の恐れのある災害時の初動

者に代わって無線で遠隔操作することができず。



また、ロボットにジャケットと食品用ハンドを組合せ衛生面を担保したピッキングシステムは、弁当に鶏肉や梅干を盛り付けるなど人手のかかる作業を自

動化しています。

そのほか、福祉分野では、肉体的な労力の負担を軽減するロボットスーツをはじめ、農業分野ではトマトを袋詰めするロボットなども展示されました。

日本のモノづくりの発展に大きく貢献してきたロボット技術は、生産現場から私たちの生活の場に到るまで拡がり続けています。

少子高齢化やインフラの整備、災害対応など様々な分野においてロボットを活用した新しい時代を予感させる大変有意義な研修会となりました。

# 会員研修旅行 福岡・山口

今年度の会員研修旅行は、十月四日（水）から六日（金）までの三日間、四十六名が参加し、トヨタ自動車九州工場の見学をはじめ、日本三名橋「錦帯橋」、大鍾乳洞「秋芳洞」や城下町「長府」と海峽都市「下関」、「門司港レトロ」などを訪ねてきました。

## 人間工学に基づいた生産ライン

トヨタがこれまでに培ってきた生産技術やノウハウを最大限に生かし、クルマの注文を受けた順番に生産を行う柔軟な多車種生産体制を構築している「トヨタ自動車九州の宮田工場」。

安全とクリーン化が徹底され、人の五感が最大限に発揮できる静かな職場環境のなかで、約二千人を超えるスタッフがウインドウやエンジンなど約六千五百点の部品を組み付けます。

別の工場で生産された各部品の搬入窓口も、組み付け行程にに応じて効率良く配置され無駄が省かれています。

また、作業する人の負担を軽減するための工夫や提案が取り入れ

られ、常に作業環境の改善と改良を行う人間工学に基づいた生産ラインとなっています。

組み付けが完了したクルマは、外観や機能、ドア・フード部分の隙間や段差など、約千八百項目にわたって入念に厳しいチェックが行われ出荷されます。

## 日本三名橋「錦帯橋」と秋芳洞

日本三名橋のひとつ錦川に架かる「錦帯橋」は、「流されない橋を造りたい」という先人たちの情熱と独自に発展した架橋技術によって生み出されたものです。

五つの木造の橋が連なる構造で中央の三連は迫持式（せりもちしき）といわれるアーチ構造で、両端の二つの橋は反りを持った桁橋構造となっています。



橋の構造は精巧かつ独創的で現代の橋梁工学においてもその技術は極めて高く評価されています。

「錦帯橋」は、国から「名勝」の指定を受けた文化財ですが、地元の子供たちの通学路やお年寄りが買い物に利用する大切な生活道路ともなっています。

一方、特別天然記念物「秋芳洞」は、秋吉台国定公園の地下百メートル、その南麓に開口する日本屈指の大鍾乳洞です。

総延長は十・三キロメートルで国内第三位となっており、温度は四季を通じて十七度で一定に保たれています。五百年に二センチメートル成長する鍾乳石。時間が凍結したような不思議な自然の造形の数々は変化に富み、自然の偉大さと感動を与えてくれます。



錦帯橋



## 城下町長府と海峡都市 下関・門司港・下関

長府は、古代から中世にかけて政治・文化の中心地として栄え、近世に入ると毛利秀元により長府藩五万石の城下町として栄えました。現在ある町並みは、毛利氏がこの地に居を構えて以来の藩政時代に築かれた大小数々の武家屋敷跡で、今も残る門長屋や土塁は、歴史溢れる城下町となっています。

また、関門海峡エリアの中で注目を集める門司港レトロ一帯は、門司港駅をはじめ旧門司税関、旧門司三井倶楽部など、明治・大正の趣を残す建築物が立ち並び当時の風情が感じられます。

このほか、ゴルフを楽しんだ「芥屋ゴルフ倶楽部」は、名匠・赤星四郎氏の設計によるもので、玄海から風が吹き抜ける緑豊かな丘陵コースでは、毎夏にKBCオーガスタトーナメントが開催されます。

最先端の技術を駆使する自動車工場や名所旧跡を訪ねるとともに名門ゴルフ場でのゴルフなど、多くの体験と思い出に残る有意義な研修旅行となりました。

# 下水道工事安全パトロール

良好な現場環境の維持と安全管理の徹底を！

技術委員会主催の「下水道工事安全パトロール」が九月十五日（金）会員四十三名のほか、長岡労働基準監督署加茂安全衛生課長、建設業労働災害防止協会新潟県支部長岡分会の関安全指導者、長岡市土木部下水道課西野課長・飯塚係長・担当の皆さんからご参加いただき実施しました。

今年度は、汚水開削工事（長岡



- 市高島町地内）と推進工事（長岡市呉服町二丁目ほか地内）の二箇所下水道工事の現場をパトロールし、長岡建設会館二階ホールにおいて講評・指導会を開催しました。
- 講評・指導では、次のような感想と指導事項がありました。
- ① 整理・整頓がしっかりと行われており、工事の完成まで継続すること。
  - ② 工事現場に小学生の絵の掲示

- や工事の進捗状況の表示など、工事のPRと周囲の住環境に配慮した対策が取られている。
  - ③ 工事関係の各種表示を見やすいところに漏れなく掲示するとともに、バリケードや設備の安全点検を徹底すること。
- 今回の指導等の内容を踏まえ、それぞれの作業現場でさらに整理整頓に努め、工事完了まで良好な現場環境の維持を図り労働災害の防止を徹底しましょう。



## 会員親睦

### ゴルフ大会

櫻井正行さんが二連覇



台風の影響で開催が心配された会員親睦ゴルフ大会が、秋晴れの十月二十四日（火）、長岡カンントリー倶楽部で開催され、櫻井正行さんが二連覇を達成しました。

上位入賞者は次のとおりです。

優勝 櫻井正行さん  
 （長岡土建工業）

準優勝 伊藤芳也さん（伊藤建設）  
 三位 星 春夫さん（椿建設）  
 ベストグロス賞

伊藤芳也さん（伊藤建設）

# 長岡市技術職員（長岡市建設技術協会）との意見交換会

長岡市技術職員（長岡市建設技術協会）との意見交換会を、十一月十五日（水）ながおか市民センターで開催しました。

今回で四回目となる意見交換会

は、若い監督員と若い現場代理人等のコミュニケーションを図り、信頼関係を築くことを目的に実施しました。

会員五十二名と長岡市技術職員四十三名が、建築と土木の職種ごとにそれぞれ七名から八名の十二のグループに分かれ、設計変更や交通誘導員、仮設の考え方など、

これまで担当した工事で困ったことや疑問に感じたことのほ

## 会員の異動について

### 代表者の変更

| 会社名      | 変更前  | 変更後  | 変更日         |
|----------|------|------|-------------|
| 株式会社北澤工業 | 北澤和博 | 北澤 晶 | 平成29年10月28日 |

※会員数（平成30年1月1日現在）80社（正会員71社、準会員9社）



か、改善に向けた提案などの意見交換が行われました。和やかな雰囲気なかで、普段疑問に思っていることや言えないことをお互いに話すことができ、大変有意義であったといった感想が寄せられました。今回の意見交換会での議論や成果などをこれからの業務に活かしていきたいでしょう。



団体優勝の皆さん



上位入賞の皆さん

## 一年半を振り返って

（株）河田建設 河田佳佑

私は、この業界に入り一年半が経ちました。前職は異業種に勤めており正直、建設業のことは全くと言っていい程知りませんでした。

当時の建設業のイメージとしては、昔からこの日本経済を支えてきた「横綱のような業種」という印象がありました。右も左もわからない中、この一年半を振り返って思ったことは、政治や経済の変化にとっても影響し易く、地震・豪雨・大雪などの天災にも直結して影響を受けやすい業種だということです。日本経済の動向により国の発注する公共事業が減少したり突然の天災によっては急に仕事が



忙しくなったりするなど、将来を見通しながら仕事をすることが他業種に比べ非常に難しい業種だと感じました。この業種は若者の担い手が少

なく3K（汚い、きつい、苦しい）と呼ばれ続けてきました。

しかし、時代も変化していく中で、現代では「厳しい・帰れない給料が安い」などといった新3Kと呼ばれる言葉も使われています。これらは建設業界に限ったことではなく、社会全体の問題になっていると思います。

私もゆとり世代と言われてきたので同様かもしれませんが、今の若者はハングリー精神が足りない人が多く、些細なことで心が折れてしまい、すぐに会社を辞めてしまうといった傾向があります。

時の流れとしても、こういった飽食の時代に生まれてきたことにも原因があるのかもしれない。ですが、将来の日本（建設業）を担っていくのは私達若者でありこれから益々厳しい社会になっていくと同時に、先輩方も引退されるので、この先どうしていったらよいか日々真剣に考えるようになってきました。

また、近い将来に於いては、AIの時代が来ると言われています。先日の協会の視察会では製造・介護・運搬などといった様々な最先端技術をもったロボットを



純なロボットでは業種的に難しいのではないのかということでした。

このような建設業界の現状を考えると、頭が痛いところがありますが、先日、現場にて地元見学会を行った際、小学校の子供達や地域の方に直径二・六メートルの貯留管の中に入ってもらい、「この管が浸水被害から皆さんの生活を守る役割をしてくれる」と説明をしました。その時、小学校六年生のある児童の一人が、「僕もお兄さん達みたいに、みんなの生活を守る凄いモノをつくれるような人になりたいです。」と話してくれました。それを聞いた時、建設業は子供達に誇れる立派な仕事であると同時に、社会には欠かせない業種であることを改めて実感しま

見学してききました。その際、感じたことは建設業のモノづくりは一つ一つ違った工程・工法で行うため、現段階としては単

した。

今後も業界全体として、厳しい状況が続いていくと思われませんが、先輩方が汗水流して築きあげてきた技術をこれからも学び続け、将来の建設業界を支えていけるような人間になれるよう日々頑張っていきたいと思えます。

